

AI 研究デザインプロジェクトスタート支援経費公募要領

1. 本経費の背景と目的

「第5期科学技術基本計画」「第4次男女共同参画基本計画」において、科学技術イノベーションの基盤的な力の強化に向けて、女性の活躍促進に関する方向性が盛り込まれており、政府として、女性研究者等の活躍に向けた取組が進められている。

本学においても、女性研究者比率や研究力の向上を目指すとともに、山口の地域課題である女性活躍の弱さを克服するために、県内の教育機関、企業、地方自治体とコンソーシアムを組み（※）、地域全体の女性研究者の活躍促進と成果の可視化を目指すべく、2020年4月に、科学技術人材育成費補助金「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」（以下「本事業」という）へ申請し、採択に至った。

6年間の補助事業期間のうち3年間補助金の交付がなされる本事業において、女性研究者の研究力向上のため、「AI 研究デザインプロジェクト」を設置した。これは、全学共用 AI サーバーを使用した AI 解析が可能となる「Diversity×AI ラボ（以下「DAI ラボ」という）」を設置し、女性研究者の研究と AI 技術を融合することで、女性研究者の研究効率化と研究活性化を行い、また学部間や他組織を含めた女性研究者の共同研究を促進するものである。

については、この DAI ラボと既存研究とをマッチングするために、AI 技術を適用しようとするデータを扱った研究をしている研究者、または、AI 技術の研究を行っている研究者に対し、本事業の経費から研究経費の補助を行う。

※ 共同実施機関「山口東京理科大学」「宇部工業高等専門学校」「宇部興産㈱」「㈱トクヤマ徳山製造所」

2. 経費の申請条件及び支援内容

本経費への申請は、原則、学内公募によるものとし、以下の条件等によるものとする。

- ・本学の研究者のうち、AI 技術を適用しようとするデータを扱った研究をしている研究グループ（個人でも可。以下同じ。）または AI 技術の研究を行っている研究グループを対象とする。なお、これら研究内容について特段の実績がなくても、今後取り組む予定のある研究グループからの申請も歓迎する。
- ・研究グループには女性研究者を含むものとし、代表者が女性研究者であるグループを優先する。なお、女性研究者が代表者でない場合は、女性研究者の研究部分のみが支援対象となることに留意すること。
- ・大学院生・学部生や学外者を加えることは差支えないが、主たるメンバーは学内の研究者でなくてはならない。特に共同実施機関先の研究者を含む場合でも、分担金とせず、本学の予算として執行すること。

申請上限額は設けないが、予算総額は5,000千円程度・採択件数は5件程度とする。また、予算残額が発生する場合は、可能な限り早期に返納するものとする。

なお、支援期間は2022年度の1年間とする。

3. 審査

審査については、複数の関係副学長及び AI 研究者による審査により選定を行う。
(ヒアリング審査を行う場合がある。)

4. 経費

(1)本経費の積算項目は、研究を実施する上で必要とする経費（備品・消耗品費・諸謝金・旅費、等）について積算可能とする。ただし、以下のような経費には使用できない。

- ・人件費
- ・施設整備・改修に係る経費
- ・任意で加入する保険の保険料
- ・支払時の振込手数料
- ・特定の目的を持った国からの資金による事業等、用途の特定された経費との合算

(2) 本経費は年度内に経費の執行を終了するものとする。特に納品を伴うものについては、令和5年2月末までに納品されることを原則とする。

5. 研究（代表）者の責務

年度終了後、研究の進捗状況報告と支援経費執行状況報告を提出すること。
(様式は別途通知)

6. 申請書類

- (1) [AI 研究デザインプロジェクトスタート支援経費申請書（様式1）](#)
- (2) パワーポイントを用いた審査（ヒアリング）用のスライド資料。様式任意。枚数は特に指定しないが、ヒアリング時の発表時間は 10 分程度を想定。
- (3) [審査（ヒアリング）日程調整表（様式2）](#)

7. 提出方法

上記6の書類を作成し、ダイバーシティ推進室へメールにより提出すること。

8. 申請書提出期限

2022年7月22日（金）12：00（厳守）

9. 申請書等提出先

ダイバーシティ推進室 [e-mail: ydpo@yamaguchi-u.ac.jp]
内線5997

10. 本経費申請に関する今後のスケジュール

公募開始 2022年7月7日（木）

書類審査 2022年7月25日（月）～ 7月29日（金）

経費支援結果通知 2022年8月上旬

審査上の視点

審査区分	審査に係る主な視点
研究計画	研究活動計画（ロードマップ）に具体性はあるか。
研究内容	実際に測定・採取・収集等された、いわゆる実データを用いて研究を実施する内容となっているか。
	データにAI技術を適用することで、新たな発見や価値・サービスの創出が見込まれる研究内容となっているか。
	研究グループの場合、編成による多様性が研究内容に反映されているか。
研究体制	研究グループの場合、その編成は適切か。また、実データにAI技術を適用して成果が出せるように、構成者の連携の仕方に工夫がなされているか。
研究成果	社会への還元、実用化等の研究成果が見込めるものとなっているか。